

「献血の危機：何故献血者は減り続けるのか？」を読んで

霜山 龍志

清水先生の「編集者への手紙」¹⁾を拝読し、20年間献血現場にいた者として感想および私見を述べてみたいと思います。

まず献血者数減少についての分析はきわめて適切であると思いますが、献血者数は減少しても献血量はほとんど減少していないのですから、それ自体はあまり問題でないともいえます。しかし、ご指摘のように若年献血者の相対的減少が著しい点が問題であります。もっともこれは年金問題と同じで、輸血の7割を受ける高齢者を少子化で減少した若者が支えるという構図自体に無理があるわけです。

ともあれ、絶対数減少を上回る若年者献血の減少の原因として、200ml献血の不要性とそれにマッチしない献血基準をあげておられますが、それだけが原因ではないと思われます。たしかにより少ないドナー数で輸血することは副作用防止に重要なことですが、この単純なことが声高に叫ばれたのは、400mlを導入した1985年ではなく、2000年ころからであります。つまり、逆に感染症スクリーニングが整備されて200mlの相対的危険性が低くなったときにこれが言われたことを考えると、むしろその本質的目的は効率性にあると思われます。

一方、献血適否判定における問診が精細化し、GMP (Good Manufacturing Practice : 医薬品の製造および品質管理の基準) のために製剤基準が厳密化したため、献血を希望しながらできない献血者の割合 (2008年統計で、男子8.2%、女子22.5%) や、献血後減損される割合が増加しています。

如上の「効率性の罨」と「安全性の罨」の二つが実は根底に潜む問題でありましょう。もちろん献血基準の緩和は安全に行えるのであれば望ましいことですが、若年者に400mlが出来るという基準を提示したからといって、献血者がただちに増えるということが期待できないことは、献血者の生の声をたとえばネットで聞けばすぐにわかることです。つまり献血者は必ずしも合理的な利他心によって献血しているわけではないのです。

「効率性の罨」については、献血事業が売血ではなく

献血者の自発的意思に頼っている以上、より安全で能率的だからという理由だけで若年者の400ml献血を簡単に推進することはできません。200mlを廃止しない限り本質的な解決にはなりません。現在の輸血の需要を満たそうとするならば、400ml重視、200ml軽視のポリシーを今一度再検討する必要すらあると考えます。

一方「安全性の罨」については、ランダムに例をあげると、英国滞在歴1日の献血からの排除とその遡及、当日無熱であった献血者の血液を1週間後にインフルエンザにかかったからといって減損する、あるいは手あれを理由に菌血症の可能性を過大評価して献血を断るなど、医学的にみても首肯しにくい制限がありすぎるというのも事実であり、その改善が求められるところです。その際献血不足との比較考量で献血基準を考えるいままでのやり方は決して科学的ではない、むしろリスクマネジメントとコストベネフィットの立場から考えるべきであろうと考えます。なぜなら、献血不足はある範囲ではリクルートにコストをかけることで克服できますが、適切な安全性は譲れない基本だからです。

しかしながら、最終的に献血者減少を防ぐ方法は、献血者を尊重することでしかないでありましょう。製造物責任を満たすために輸血患者を尊重することがいままで行われてきました。そのこと自体はいいことですが、献血者あつての輸血であり、献血者を物心両面で尊重することこそ、まず最初にやらなければならない道であります。そのなかには、交通費や記念品の供与や、確率的に予防できないVVR (Vaso Vagal Reaction : 血管迷走神経反応) 後の事故に対する真摯な補償も含まれるでしょう。前者については新血液法が遅ればせながら売血を禁止したことから自由度が制限されており、後者についても無過失責任が確立されなかった点が遺憾に思われます。

Dr Hollandもそうしたリクルートへの努力によってdonor loyaltyを築くことを強調しています²⁾。その意味では東京都センターのアキバルームの試みやツイッターの活用は、その一歩となるものだと思います。故関口定美先生が提唱したベタードナーサービスもまさ

にその点を指摘したものであります.

文 献

- 1) 清水 勝：献血の危機：何故献血者は減少するのか？
日本輸血学会雑誌, 55 : 723—724, 2009.
- 2) Holland P: Reply to your opinion on donation system.,
personal communication 2008.4.3.

COMMENTS ON THE LETTER TITLED “BLOOD DONATION CRISIS: WHAT EXPLAINS THE RECENT DECREASE IN VOLUNTARY BLOOD DONORS, PARTICULARLY YOUNG PERSONS ?”

Ryushi Shimoyama

Division of Internal Medicine, Zion Yamahana Kita Hospital

Keywords:

trap of efficiency, trap of safety, better donor service